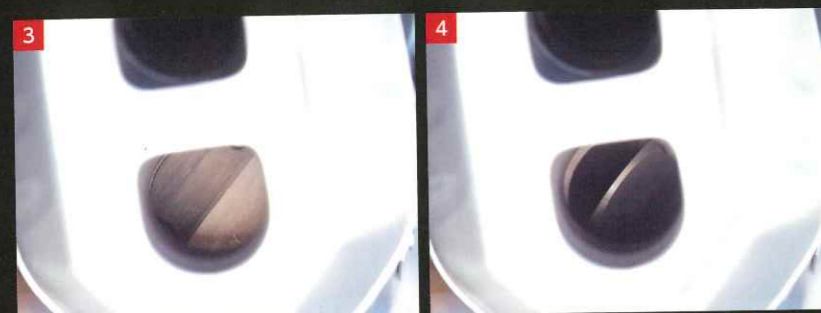


音量操作は、簡単ワンタッチ

ハンドルに装着したボタンで、バタフライバルブの開度を3段階で変更でき、それに伴い音量とパワーフィーリングを調整できる。走行中もちろんOK。



1インジゲーターランプ兼音量調整ボタン。エンジン始動時は全閉。一回押すと全開。立て続けに二回押すと半開となる。2サイレンサーの外側にワイヤーがあり、外部モーターを使いバルブを制御。



3マフラーエンドを覗き込むと開閉バルブを確認できる。これは全閉時。4全開時はこのよう解放され、迫力のある音に変化し、フィーリングも変化する。

R1250GS

本体：Nomad Carbon Steel
 エンドキャップ：Double D
 Polished Stainless Steel
 価格◎22万7005円

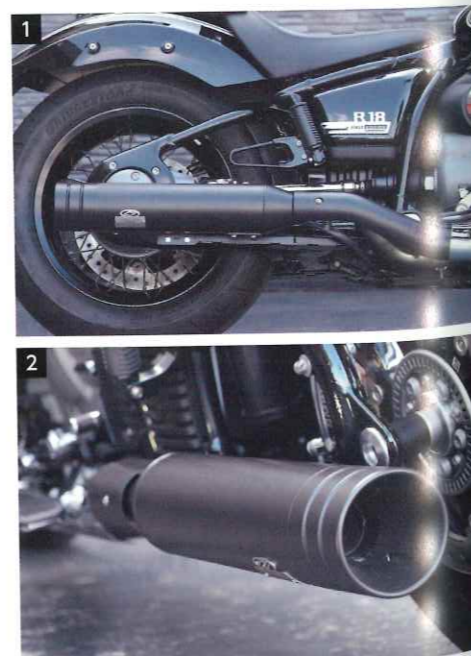


音の変化はこちら

YouTube上のこの動画でR18の音量の変化を確認できる。スイッチ操作の説明もあり。

◀QRコード

ジキル&ハイドはハーレーユーザーからの認知度は高い。JMCA認証品のため特にディーラーでのカスタム品として選ばれ、年間1000本近くの販売実績がある。



1デモ車に装着されているのはブラックのショートタイプ。質感も素晴らしくR18の持つ高級感を損なわない。BMWBIKES編集部のカスタム企画で装着するのはこれのクロームモデルだ。2エンドキャップはクロームも選択でき、形状は3種から選択可能。

BMW Motorrad用はR18からスタート



本体：Beat Short Black エンドキャップ：4.0" Big Shot Black 価格◎43万574円
 サイレンサーは黒とクローム、長さは2種あり、エンドキャップも3種の形状から選択でき自分好みに仕上げるのが可能。純正の配線に介入する必要があるがカブラーオンなので加工は不要だ。

カスタムで
 個性を
 際立たせる

音量変化が自由自在 ジェントル、そしてエキサイティングに

吸排気系をカスタムし、エンジンの持つ性能を解放する。それに伴い変化するのがエキゾーストノイズ。マフラーの咆哮するレーシーな音に酔いしれる。しかしその音が心地良く感じるのは本人とごく一部。いつまでも世間から白い目でみられるわけにはいかないが、やはりバイクらしいサウンドも楽しみたい。そこで登場したのが音量調整が可能な次世代マフラー「Dr.ジキル&Mr.ハイド」だ。

Text / Akira Kurita Photo / Toyoshi Miyashita

Dr.Jekyll & Mr.Hyde (ジキル&ハイド) NAVRAS (ナヴラス)

大阪府柏原市本郷5-4-18 ☎072-970-3110
<https://configurator.jekyllandhyde.com/jp/bmw>

マフラー内部のバルブで
 キャラクターが一変

純正マフラーのトータルバランスの高さは疑う余地はないが、そこにアクセントを加えて自分仕様仕上げるのがカスタムの醍醐味だ。排気ガス規制のハードルは高くなる一方だが、マフラー交換は代表的カスタムメニューである。マフラー選びにおいて、デザインや素材と並び排気音を重視するユーザーは多い。社会的規範に照らせば爆音マフラーは問答無用だが、せっかくなら交換するのならノーマルとは異なる個性も欲しい。

▶QRコード

ラインナップはこちら

日本に近日上陸し認証を受けるのは、R nineTシリーズ、R1250RS/R、R1250RT。価格や仕様などはこちらから確認可能だ。



に、郊外ではワイルドさを満喫できるのがジキル&ハイドの特徴だ。1本のマフラーに潜む二面性という点は18世紀に書かれた小説の主人公そのものである。ただし21世紀を生きるジキル&ハイドマフラーは、本国では国連欧州経済委員会規則に適合するEマークを取得し、日本ではJMCA認証マフラーとして認められているから、安心して公道で使用できる。サイレンサーボディやエンドキャップの素材や仕上げをオーダーできるのも、個性をアピールするための大きな武器となる。TPOでキャラクターを使い分けられるジキル&ハイドは、マフラーカスタムの二面性を巧みに両立させた製品である。



ジキル&ハイドの日本正規代理店の(株)ナヴラス代表の岡本氏。ユーザーが楽しむのはもちろんディーラーも安心して販売できるようにJMCA認証品に拘りを持つ。

